

ISO/TC20「航空機および宇宙機」

第53回 ロンドン国際会議報告

令和元年（2019年）10月17日および18日、ISO/TC20「航空機および宇宙機」技術委員会第53回国際会議がイギリス・ロンドンにて開催されたので、その概要を報告する。

1. はじめに

ISO（International Organization for Standardization、国際標準化機構）は、様々な重要技術分野において国際的な標準化や規格策定を推進するため1947年に設立された164ヶ国が参加する国際機関であり、スイスのジュネーブに本部を置き、247のTC（Technical Committee、技術委員会）が設置されている。その中で航空機および宇宙機に関する国際規格を扱うTC20は、国際投票権を有する15ヶ国（Pメンバー国）と投票権を持たない28ヶ国（Oメンバー国）から構成され、下部組織として11のSC（Sub Committee、分科委員会）が設置されている。（表1参照）

2. 概要

TC20第53回国際会議の開催場所および日程は次の通り。

●場所；BSI会議室、イギリス・ロンドン

●日程；2019年10月17日～18日

議長国アメリカをはじめ、日本、イギリス、フランス、ドイツ、ロシア、ブラジル、スイス、中国の9ヶ国から26名が参加、日本からは(株)IHI 濱崎国内委員長と、国内事務局 原野が参加した。

3. 会議結果

特記事項は次の通り。

表1 ISO/TC20構成

ISO	議長国	幹事国	日本の参加地位
TC 20 航空機および宇宙機	アメリカ	アメリカ	P
SC 1 航空宇宙電気系統の要求事項	フランス	中国	P
SC 4 航空宇宙ボルト、ナット	ドイツ	ドイツ	P
SC 6 標準大気	ロシア	ロシア	N
SC 8 航空宇宙用語	ロシア	ロシア	N
SC 9 航空貨物及び地上機材	フランス	フランス	O
SC10 航空宇宙用流体系統及び構成部分	ドイツ	ドイツ	P
SC13 宇宙データ及び情報転送システム	中国	アメリカ	P
SC14 宇宙システム及び運用	アメリカ	アメリカ	P
SC16 無人航空機システム	アメリカ	アメリカ	P
SC17 空港インフラ	アメリカ	アメリカ	P
SC18 材料	フランス	フランス	P

(1) TC20ステータス報告

昨年の第52回東京会議の議事録確認の後、国際事務局よりTC20委員会および各分科委員会のステータス報告が行われた。

TC20国際議長については、新たにLockheed Martin社のRich Forselius氏が就任され、ご本人から自己紹介があった。

また、新たにTC20参加国としてPメンバー国にモンゴルとパナマが加わり15ヶ国に、Oメンバー国にトルコとUAE (United Arab Emirates、アラブ首長国連邦) が加わり28ヶ国となり、総勢43か国の委員会となった。

なお、イラン、イタリア、カザフスタン、メキシコ、ウクライナについては、過去2年間の国際会議に出席しておらず、投票も実施されていないことから、適切な対応を促す旨の報告があった。

この他、元SC9国際議長のJean-Jacques Machon氏と元SC17国際議長のWilson Felder氏が逝去されたとの連絡があった。

(2) ISO中央事務局からの連絡

ISOでは、国際事務局をCommittee Secretaryと称していたが今後はCommittee Managerとする、との紹介があった。国によっては、SecretaryからManagerに「降格」したと受け止めるケースもあるかも知れないが、これがISOの統一呼称とのこと。

(3) SC1報告

SC1事務局より、インド、ニュージーランド、ロシア、ウクライナ、イギリスに対し、Pメンバー国として積極的に参加して欲しい旨の要請があった。またアメリカに対してはPメンバー国への復帰とエキスパートの派遣、ブラジルに対してもPメンバー国への加入を強く要望した。

なお、SC1の活動としてWG15で規格化を進めていた日本提案のWD 22211 (LEDタクシーライトの設計ガイダンス) について、国際照

明委員会からのコメントに対応するには大規模な追加試験が必要となり、活動の継続が困難なことから中止する旨の報告がなされた。

(4) SC4報告

アメリカに対し、Pメンバー国としてSC4に参加してもらいたいとの要請があった。

また、WG1とWG2については現時点で非活動であるとの報告があった。

(5) SC6報告

SC6委員長 (ロシア) は国際会議にほとんど参加できていないため、TC20委員会としてロシア政府に適切に支援するよう要請することとなった。

また、今後ロシア政府の理解・支援が得られない場合、現在リエゾン関係にあるSC14 / WG4との統合も視野に入れる必要があるとのこと。

(6) SC8報告

ドイツ、フランス、カザフスタンおよびインドに対し、Pメンバー国としてより積極的に参加するよう要請があった。

また、SC8も議長国・幹事国が共にロシアでありSC6と同様の問題を抱えているため、委員長および事務局の国際会議出席についてロシア政府への働きかけを行うこととなった。

(7) SC10報告

Pメンバー国として義務付けられている国際会議への出席や投票が滞っている「非活動Pメンバー国」として、インド、ロシア、およびウクライナが報告された。SC10は引き続きこの3国に対して参加を呼び掛けるとのこと。

(8) SC13報告

新たに、Pメンバー国にカザフスタンが、Oメンバー国にチェコが加わったとの紹介があった。

また、事務局の交代が報告された。

(9) SC14報告

新たに、Oメンバー国としてニュージーランドが加わったとの紹介があった。

(10) SC16報告

新たに、Pメンバー国としてUAEが、Oメンバー国としてアイルランド、ポーランド、スウェーデンが加わったとの紹介があった。

(11) SC17報告

新たに、Oメンバー国としてフィンランドが加わったとの紹介があった。

(12) アドホック・グループ提案

フランスより、航空宇宙分野におけるAI (Artificial Intelligence、人工知能) 適用の必要性を議論するため、アドホック・グループを設立したいとの提案があり、了承された。

(13) Pメンバー国の国家規格活動紹介

昨年の第52回会議にて合意された「参加国の相互理解のため、毎年のTC20総会において各国の国家規格組織や国内活動に関する紹介プレゼンを行う」との議決に従い、提案者である中国から発表があった。

中国には航空宇宙関連の会社組織として、中国航空工業集团有限公司 (AVIC)、中国航天科技集团有限公司 (CASC)、中国航空発動機集团有限公司 (AECC)、中国商用飛機有限責任公司 (COMAC) があり、更に政府機関として中国民用航空局 (CAAC) がある。その中でAVICの下部組織として航空工業総合技術研究所 (CAPE) が航空関連の国家規格開発、およびISO国際規格との連携を担当しているとのこと。



中国代表によるプレゼン資料より

4. 今後のTC20国際会議について

次回以降の国際会議は、次の日程および場所で開催される予定。

- 第54回；2020年9月21日～25日、シアトル（アメリカ）
- 第55回；2021年、秋、開催地はブラジルまたはロシアで調整中。



集合写真



会議風景



会議風景

5. 所感

Pメンバー国の国家規格活動紹介は今回から始まった試みであるが、他国の仕組みを理解するのに役立つと感じた。

今回、中国より航空宇宙関連企業として4つの組織名が紹介されたが、それらは私企業ではなく共産党中央政府に管理・監督される国営企業であることから、国際規格への関与

の仕方もかなり戦略的かつ自国中心的な「統制」に沿っているものと思われ、西側諸国とは全く異なる仕組みであることを認識して会議での発言等を聞くべきである。

来年の国際会議ではフランスがプレゼンを行う予定であるが、いずれ日本も順番が回って来るため、早目にTC20国内委員会において準備を行いたい。

〔(一社)日本航空宇宙工業会 技術部 部長 原野 清隆〕